

## 価値を深める発問構成の例 C【規則の尊重】の道徳授業において

同じ資料を使っても、発問が変われば子供たちの学習の深まりはずいぶん変わります。道徳の授業の良し悪しは、資料選びと発問で決まります。今回は、価値を深める時の発問構成の例を見ていきましょう。

- ・資料 「雨のバス停で」(私たちの道徳)
- ・資料内容

雨の日に、バスに乗るためにバス停に並んでいたよし子と母親のエピソードです。みんなが雨を避けて軒先に並んでいたときに、バスが近づくのに気付いたよし子は、その列を抜け出し、先にバスに乗ろうとしました。すると母親にぐっいと肩を引き戻され、結局、乗ったときに空席はなく、不満そうに母親の顔をながめるけれど、なぜかいつもの優しい母親とは違うよそよそしい態度であったという内容です。

### A 一般的な展開

- ① 導入 身の回りの規則にはどのようなものがあるか。
- ② 学習課題提示
- ③ 資料範読
- ④ 発問1 順番を待っている時のよし子の気持ち
- ⑤ 発問2 ぐいと引き戻された時のよし子の気持ち
- ⑥ 発問3 お母さんの横顔を見ているときのよし子の気持ち
- ⑦ 終末 これまで決まりを守ってきた経験発表
- ⑧ 教師の説話

<予想される児童の反応>

- ・自分一人ぐらいという考え方はいけない。
- ・決まりをまもらないとみんなが迷惑する。
- ・お母さんは恥ずかしかったらうな。

### B T大附属小学校K先生の実践

- ① 導入 決まりはなんのためにあるのか。
- ② 学習課題提示
- ③ 資料範読
- ④ 発問1 よし子はどんな子だと思うか
- ⑤ 発問2 よし子は変わったか
- ⑥ 発問3 変わったとすればどこが変わったのか
- ⑦ 終末 きまりとして明記しなくても守れる人はどんな人か
- ⑧ 教師説話

#### <授業記録>

- |   |                          |
|---|--------------------------|
| T | きまりは何のためにあるのでしょうか        |
| C | 守るため                     |
| C | みんなが楽しく過ごすため             |
| T | 楽しく過ごすとはどういうことですか        |
| C | 赤信号で止まらないと事故に遭う          |
| T | よし子さんがどんな人か考えながら聞いてください  |
| T | 資料範読                     |
| T | よし子さんはどんな人だと思いますか        |
| C | 自己中心的                    |
| C | 自分勝手                     |
| C | 最初はそうだけど、最後は反省している       |
| C | お母さんを座らせてあげようとしているから優しい人 |
| T | よし子さんは変わりましたか。           |
| C | 変わらない                    |
| C | でも、最後は変わったんじゃないかなあ       |

T そうだね。考え始めているね。最初と最後を対比させるために板書で図示

T 最初と最後でどのように変わりましたか

C 始めは自己中心的だったけど、最後は周りのことを考えられるようになった

C 心が広がった

T よし子さんの見る目が変わった、広がったのですか

C うん、最初の子は私しか見ていない

C (そうそう、私様)

T なるほど、私様か、面白いねえ。最初の子は私様なら、最後の子は何様ですか

C 人様

T なるほど。今まで自分のことしか見ていなかった、考えていなかったよし子さんが、人のことに目を向けられたのですね

C そう。雨の日は割り込まずにきちんと並んで乗車しようという決まりに気付いた。

T そういうきまりはどこかに書いてあるのですか

C 書いてない

T では、きまりじゃないのでは

C きまりじゃないけど、まもらなくてはいけないことがある

T そうか、この「雨の日は…」というのをきまりにしなくてはいけない人と、きまりにしなくてもいい人がいるのですね

T では、きまりにしなくても守れる人ってどういう人だろう

C 心の中にきまりがある人

C よし子は、最初は外にきまりがあって、守らせる人も外にいたけれど、最後は自分の中にきまりがあるようになった

T そういう人だったら、どんな社会をつくることができるだろうね

C 自分のことも自分の広い心で考えられるから、きまりが必要なくなってくる

C 逆に、きまりがなくても、必要なこと葉自分の判断で行ったり、ストップをかけたることができるようになる

T 皆さんよく考え、気付きましたね。気付くことのできたみなさんも、きまりがなくても自分で考え、行動できる人になれそうだね。そういう人って、きまり守りレベルが高いですね

#### <授業の感想>

先生が最後に言った言葉は、「きまりを守るレベル」でした。考えてみると、最初の子はレベル1だけど、最後はレベル100だと思います。僕も、俺様ルールは作らずに、人様ルールを作りたいです。

この授業記録は、T大附属小研究紀要 Vol.71 にありました。優れた指導例だと考えます。K先生は、「考える議論する道徳」にとって必要な問いの条件について研究し、授業を通して、「ああ、そういうことか。自分もこういう生き方がしたい」と子供に実感させられる授業作りをめざしてみえます。本時では、始めは「きまりを最上位」にしていたのが、「きまりにしなくても守れる人がいる」と考え始め、最終的に「きまりがなくても、自分たちが守るべきものはある。それをきまりとしている」ことに気付かせています。別の資料「星野君の二塁打」の指導に応用すれば、<明文化された野球のルール→明文化されないチームのルール→マナーなど社会一般のルール>の順で、規則の必要性を考える展開となります。<明文化されたルールの必要性→明文化されていないルールの必要性>の流れ、何となくうまく行きそうです。他の資料でも応用できそうです。

では、他の価値では、このように発問構成を一般化できないでしょうか。研究をしてみる価値はありそうですね。

